

滋賀の文化情報誌

デュエット

Duet

2018 秋 vol.129

特集

栗東歴史民俗博物館 市民学芸員の会10年のあゆみ

新撰 淡海木間撰 73

兵主大社伝来の太刀

INFORMATION STATION

催し案内 2018秋

MYBOOK 自費出版物の紹介

SUNRISE BOOK PRESS

サンライズ出版の新刊案内

特集

栗東歴史民俗博物館

市民学芸員の会10年のあゆみ

地域の歴史や文化を自主的に学び、楽しむことを目的に活動してきた栗東歴史民俗博物館の市民学芸員の会が、今年で発足から10年を迎えました。

博物館の収蔵資料の整理・展示準備、小学生向け学習プログラムの開発など、全国でも数少ない活動を行ってきた同会のあゆみを振り返っていただきました。

旧中島家住宅で行われる「かまどめしを炊こう!!」で参加者に火の吹き方を教える市民学芸員
(栗東歴史民俗博物館提供)



栗東歴史民俗博物館

住 所 栗東市小野223-8

連絡先 TEL 077 (554) 2733

休 館 日 月曜日(祝祭日を除く)、祝日の翌日(土・日、祝日を除く)、年末年始(12/29～1/4)

入 館 料 無料

アクセス JR 琵琶湖線「草津駅」からバスにて約15分「図書館・博物館前」下車、徒歩1分／JR草津線「手原駅」から徒歩20分

取材／編集部 写真／辻村耕司



↑敷地内に移築されている旧中島家住宅

博物館での研修を経て、自主的に学び、楽しむなかで広がった世界。

「友の会はあえてつくっていないんだ」

—皆さんお忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。まずは順に簡単な自己紹介をお願いしますか。



栗東歴史民俗博物館
市民学芸員の会 会長
瀧江善光 さん
(75歳) 栗東市林

瀧江 私は父が国鉄に勤めていたのもともとは草津の大路井にあったその官舎で生まれました。ですが、父が病気になる昭和24年（1949）ぐらいに親元があった栗東の林にもどったので、それからずっと住んでいます。10年ほど前までは、2反ぐらいあった田んぼもしていました。



栗東歴史民俗博物館
市民学芸員の会 会員
山内良則 さん
(80歳) 栗東市安養寺

山内 私は出身が島根県の津和野です。縁があって草津で仕事をしていました関係で、栗東に住むようになったのが昭和56年（1981）です。瀧江さんですが、会設立の前の研修の時から参加させていたでいて、そのまま市民学芸員の会に入り、今日に至っているという状況でございます。



栗東歴史民俗博物館
市民学芸員の会 会員
前田和子 さん
栗東市高野

前田 私は生まれと育ちは大阪で、結婚して栗東に来てからずっとおります。お二人もそうだと思いますが、市民学芸員研修のお知らせを『広報りっとう』で見て、その中にあった「掛け軸の取り扱い方」というのにひかれて参加したのが始まりです。親が残してくれた掛け軸を、どう扱えばいいのかわからなかったもので（笑）。



栗東歴史民俗博物館
学芸員
大西稔子 さん

大西 私は出身は京都府の亀岡で、15年ほど前から当館に勤めています。

—大西さんは、市民学芸員の会に設立当初から関わっておられたのですか。

大西 当時すでに館にいましたが、館長だった佐々木進さんが中心になって会の世話をなさっていたので、初めの頃はそれほど密接に関わるといことはありませんでした。

—佐々木元館長の設立時のお考え、目的はどんなものだったのでしょうか。

大西 多くの博物館や資料館には友の会という組織が設けられていますが、佐々木元館長は、「友の会はあえてつくっていないんだ」とおっしゃっていました。

友の会より一歩も二歩も踏み込んで、より自分から学びたい、知りたいという気持ちで、どんどん積極的に博物館に関わってくれる人たちを育てたいのだというお考えでした。

—会発足前の平成15年（2003）に始まった研修はどんな内容でしたか。

山内 古文書の読み方もあったし、梵鐘（お寺の釣り鐘）の銘の調査をしました。栗東市内にあるお寺をいくつか回って、いつつくられたか、誰がつくったのか、何のために納めたかを班で調べました。

瀧江 江戸時代から栗東市にに鑄物師がいて、全国から釣り鐘の注文を受けていたんです。佐々木先生といっしょに拓本を取りに行きました。遠くでは東京世田谷の豪徳寺へも行きました。

前田 拓本も習いましたし、日向山（標高222m）にあった多喜山城の地図を自分の足で書きましようというのもありました。山内 いわゆる縄張り図ですね。日向山は伊勢落の南にある、小さな山です。

瀧江 古墳の石室もあるんでね。埋蔵文化財の専門の方に案内してもらって。

※1 辻の鑄物師

江戸時代、栗太郡辻村を本拠に全国各地に出職、出店した鑄物職人。鉄湯釜や鍋口、梵鐘などを製造し、江戸に出店した太田家は、幕府の「御成金御用」を務めていた。

※2 多喜山城

近江南部の守護六角氏などの諸勢力と織田信長が対立した、いわゆる「元龜争乱」にあたり、織田方が東海道を見下ろせる山上に築いたとされる。

——その時点で、市民学芸員希望者としては何名ぐらいいらっしゃったんですか。

大西 第一回から20人ずつぐらい応募があつて、最初の1期生は2年ですべての課程修了というものでした。

山内 4期生までいったんですかね。

大西 栗東市の広報紙で募集したので、市民の方中心なんですが、どこかで聞いてこられた市外の方もいらっしゃったり。

——ほとんどの方は定年後の活動にという感じですか。

山内 圧倒的にそうですね。でも、若い人もいます。

澁江 今年、20代の方が1名入ってきました。別にお仕事はなさっていて。

——女性は何れぐらいの割合なんですか。

澁江 前田さんのほかに、6人かな。いま会員20人のうち。

前田 お一人はまだ若くて、産休で休んでいらつしやいます。

——栗東生まれの方より、転入者の方が多いのでしょうか。

山内 あまりそれぞれの経歴は話さないのですが、われわれのようによそで育って栗東に住むようになった人が多いと思います。

——前田さんは、城の縄張図にも参加なさっていたんですか。

前田 はい。なんでも時間があったら参加していました。「虎口」という言葉もその

場で初めて聞いたぐらいでしたが、新しいことを教わるのがおもしろくて。

大西 前田さんは何でも楽しめるタイプですよね。

前田 はい。それは、佐々木先生のおかげでもあります。私たちがみたいな本当の素人

大好評を博した竹村定治コレクション展

——設立前になされた、金勝寺の参詣道にある二十四丁石の保護活動というのは、

大西 平成19年(2007)に金勝寺に上がる参詣道の丁石が、いろいろなところで抜き取られているので何とかならないかと、土地の所有者の方が佐々木元館長に相談なさって、澁江さんたち研修修了生たちが集まる会(市民学芸員の会ではない)ができたので、佐々木元館長がお話を持っていきました。

その翌年の平成20年に設立したので、その保護活動が設立へ勢いづく最後の踏切板のようになったといえます。

澁江 私はずっと石造物などにも興味があったので、40年ほど前に専門の方から拓本の取り方を教わり、滋賀県や東近江市、三重県教育委員会からも拓本を頼まれました。入会時にもそのことを伝えていたので、後々、この館の展示資料をつくるために拓本を取るお手伝いもしました。

は、「そんなことも知らないで入ったの?」みたいなことを言われたら、とくにやめていたと思うんです。ちゃんと私たちのレベルまで下りて説明してくださるので、後ろからちょこちょこですが、着いてこられたのかなと思います。

また、昭和40年代の終わりぐらいに、文化財保護の対象になった社寺の中に無住のところが多いというので、文化庁が各県に月に一回パトロールするよう指示しました。それを、私も15年ほど担当していました。

——それで、金勝寺参詣道の丁石についてもう存じだったんですか。

澁江 そうです。拓本を取ろうと参詣道を回っていたので。金勝寺の場合、五十何丁から順番にたどっていくとお寺に着く丁石が、飛び飛びになっている。どこにあるのかと、いろんな人にあたってた。

例えば、二十九丁石の磨崖仏は、この館のロビーにレプリカが展示されていますけれど、その1丁(約109m)上がったところにあつた二十八丁石は今はありません。拓本を取りましたが、いつの間にか抜かれて持っていかれてるんです。参詣道は車でも上がれるから。

大西 おそらく庭石などとして売られるんだと思います。道標でも、庭石にされたり



↑会発足前の研修のようす

- A 掛け軸の取り扱い方
- B 鯛口の各部の計測
- C 梵鐘の調査方法
- D 中世城郭の調査方法

栗東歴史民俗博物館 市民学芸員の会のあゆみ

年	月日	出来事
平成2年 (1990)	9月	栗東歴史民俗博物館開館
平成5年 (1993)		敷地内に旧中島家住宅を移築復元。翌年5月から一般公開
平成15 (2003)～ 19 (2007) 年度		『広報りっとう』などで市民学芸員を募集。全12回を2ヵ年度かけて受講する研修を実施
平成17年 (2005)		研修を修了した受講1期生によって「いがぐりの会」(市民学芸員の会の前身)発足
平成19年 (2007)		竹村定治さんが鉄道模型や鉄道関連資料3000点余りを寄贈
	11/15	盗難被害から守るため、金勝寺参詣道の二十四丁石を金勝山中から搬出
平成20年 (2008)	4月	市民学芸員の会発足 竹村定治コレクション調査・整理開始
平成21年 (2009)	10月	小学生向け体験学習プログラムとして「 さおぼかり 竿秤体験」を開始
平成22年 (2010)	9/18～10/11	「竹村定治コレクション展 鉄道模型の世界」開催(9/18～20、9/26、10/3、10/9～11 鉄道模型運転会)
平成26年 (2014)	4月	旧中島家住宅ヘッツイ(かまど)再生事業に参画
平成27年 (2015)	5～8月	旧中島家住宅かまど再生事業ワークショップ支援
	7/4～8/16	第2回「竹村定治コレクション展 鉄道模型の世界」開催(7/18～20 鉄道模型運転会)
	10/12	旧中島家住宅、再生かまど開き
平成28年 (2016)	1/9～2/21	博物館と市民学芸員の会共催による特集展示「文化財と拓本」開催。市民学芸員の会では、前年8月から版木を整理
平成30年 (2018)	5/19～7/1	10周年を記念して特集展示「博物館をしよう! 市民学芸員の会10年のあゆみ」で活動を紹介
	6/22	滋賀県博物館協議会より顕著な功績のあった団体として表彰を受ける
	10/8	栗東市より市政功労者表彰を受ける



↑E 金勝寺参詣道の二十四丁石の保護活動のようす

F 『東海道名所図会』輪読会で草津を探索

が、竹村コレクションという鉄道資料の整理です。

次にあがっているのが、竹村コレクションという鉄道資料の整理です。

高宮(彦根市)などに行きました。湖西方面がないのが残念でしたが、次は京都の社寺を紹介した『都名所図会』に決まりました。佐々木先生は京都の人なので、よくご存じです。

山内 栗東市伊勢落に住んでおられた元国鉄職員の竹村定治さんが、亡くなる前年の平成19年(2007)に博物館に寄贈なさった鉄道関係の資料が膨大な量だったものから、整理することになったんです。

鉄道模型のNゲージを、日本のもの、外国のものに分け、さらに国別に仕分けしたり、機関車の製造年、製造台数といったデータを整理したりしていったので非常に時間がかかり、まだ9割方しか終わっていません。旅行先で買われた絵葉書や列車の絵が描かれたネクタイピンなんでものまであって

に、中山道にあたる『木曾路名所図会』で

『東海道名所図会』で草津や水口(甲賀市)

に、中山道にあたる『木曾路名所図会』で

高宮(彦根市)などに行

きました。湖西方面が

ないのが残念でしたが、

次は京都の社寺を紹介

した『都名所図会』に決

まりました。佐々木先

生は京都の人なので、

する例があるので。

澁江 それで、二十四丁石については土地の持ち主の方が盗難被害から守るために「博物館に移してほしい」と依頼されたのです。軽トラに積んでもいいんですけど、みんなでイベント的に持って帰ってこようということになり、修羅に載せて縄で引いて運んだんです。市民学芸員が団結して、組織化するよききっかけにはなりましたね。

きます。まず、『都名所図会』の輪読会。

澁江 佐々木先生が講師で、この3人は参加しています。古文書に関心がある人は多いですが難しい。私も何十年も前に勉強し始めて、当時は仕事も忙しかったのでやめてしまった口です。『名所図会』の場合は現代語訳の本があるので自習もできるし、読んだ後は実際に現地を歩いています。

※3 金勝寺 栗東市南部の金勝山(標高605m)の頂上近くにある天台宗の寺院。奈良時代に良弁が開基したと伝わり、湖南仏教文化の中心をなした。

※4 竹村定治 (1925～2008) 昭和18年(1943)に日本国有鉄道に就職。応召出征を経て、終戦後に国鉄に復職。大阪駅助役、関西鉄道学園講師などを務めるかたわら、鉄道資料の収集を行う。

中心になさったんですね。

山内 たまたま私は前職のころに、鉄道の車両の部品を製造する会社で設計をしていたものですから、模型と私がつくっていたものを頭の中で引き比べると、こちら辺のこれだなというのがわかるんです。それでいつの間にか、私が担当のようになってしまっています。

——コレクションを使った展示会も2回なさっていますね。

山内 模型を展示するだけでなく、ミニレールを敷いて車輛を走らせる運転会を併設したんです。運転が上手な鉄道ファンにお願いして、手弁当で来てもらって。そのおかげもあって、大阪や名古屋の愛好者グループもいらっしやいましたね。

大西 記録を見ますと、最初の平成22年（2010）の入館者数が5931人。鉄道模型の運転会には3857人。2回目の平成27年（2015）は入館者数6894人、運転会が2407人でした。

山内 22年は、開催期間の最初と最後に運転会を行ったのですが、27年の時はどうしても都合がつかず期間半ばの一度だけだったので、その分だけ運転会の参加者数が減りました。

大西 第一回の展示では、館と会で栗東市の市民協働事業に手をあげたので、山内さんには審査のプレゼンなど一生懸命やっていただきました。

山内 これだけの展示をしようと思ったら、やはり10万円余りのお金がいるわけです。市民協働事業は、費用の4分の1を市民団体が出し、残りの4分3を栗東市が出してくれるというので、やるだけやってみるかと。おかげさまで第一回が大成功だったので、2回目の時は博物館がちゃんと予算を取ってくださいましたが。

——年度ごとの総入館者数でも、この10年で竹村コレクション展があった平成22年と27年が突出していますね。

澁江 模型を入れるケースも全部、山内さんが設計して作られたものです。

山内 保管ボックス展示という考え方だったので、そのまま運搬して即展示できるように、使い勝手のよいケース作りからやりました。貸し出しもしたことがあるんです。

市民学芸員の会のこれまでの活動内容

輪読会	月1回開催。『東海道名所図会』『木曾路名所図会』に続き、『都名所図会』原文を当番制で読む。講師：佐々木進元館長。現地のウォーキングも開催
竹村コレクションの整理	寄贈された鉄道関連資料の整理
いがぐり農園	旧中島家住宅の隣にある畑で、体験学習で使われる野菜や綿を栽培
公開講座の開催	栗東の文化財をテーマに、会員の研修を兼ねて開催（一般参加可）
「かまどめしを炊こう!!」に協力	旧中島家住宅のかまどでご飯を炊くお手伝い。3～11月まで月1回
博物館教室「昔のくらし」に協力	小学3年生の体験学習のお手伝い。竿秤で重さを量る体験など
その他	栗東ジュニア歴史講座、「博物館夏祭り」など、館の事業に協力。県内外の博物館への研修や懇親会などもあり

小学生向け体験学習プログラムを開発

——では次に、いがぐり農園。

澁江 農園は旧中島家の隣に畑があって、当初は私も家で畑をしていましたしね。土日にでも市民学芸員で管理をして、月1回ぐらい「かまどめし」を食べる催しの食材にしようということでやりかけたんですが、なかなかみんな続かなくて、私も腰が痛くてね、いまは植えていないんです。

——食材以外に、会のブログには綿の写真もあがっていますが。

澁江 綿も、今年は私や前田さんなど3、4人が苗をもらってそれぞれの家の畑に植えています。10月13日の催しで行う綿繰り（わたくり）は、これまでに収穫した綿がたくさんあるので、それを使う予定です。

手回しの綿繰り機を使うのですが、これも山内さんが図面を引いて自作してみようということになって、どうしても回転する螺旋（らせん）の部分の削り方がわからず、古い製造道具を収蔵する兵庫県立歴史博物館に調査

に行ったりしました。

——すでにお話に出てきましたが、旧中島家での「かまどめしを炊こう!!」にも協力なさっています。

澁江 毎月第3土曜日にやっています。暖房も窓ガラスもない建物なので、冬の12月、1月、2月を除いて。

大西 平成5年（1993）に旧中島家住宅を移築した時点で、「かまどを稼働させる」方針だったので、年に何回か市民を対象にした、かまどを使ったイベントを催していました。

それで、平成20年度からは定期的にかまどごはんを炊く「かまどめしを炊こう!!」を市民学芸員の会と協力してすることにしました。

——つづいて、小学3年生が対象の博物館教室「昔のくらし」に協力。

大西 当館が市民学芸員の会設立よりも前から取り組んできた、小学校向けのプログ

ラムで、当初は博物館のスタッフと、旧中島家住宅の管理人さんでやっていたので、市民学芸員の会ができたのを機に「いっしょにやりませんか」とお願いしました。

その後、「独自にプログラムを開発してみませんか」と持ちかけましたら、「竿秤で重さを量る体験」をつくってくださいました。

——これは、「てこの原理」を教えるということですか？

大西 そうではありません。今の秤とは全然違う仕組みの道具で量っていたこと、重さの単位も違うことを小学校3年生に知ってほしかったのです。

澁江 竿秤も依を量るような大型のものから、小さなものを量る小型のものまである。学校向けの体験では小型のものを使っていました。ある時、大型のもので体重が量れるとおもしろいと思い、大型の竿秤に支えをつけて体重が量れるようにしてみました。小学校向けの体験とは別に、イベントなどで大人から子どもまでこの竿秤で計量してもらいました。

——皆さん、小学生相手にいろいろ説明したりもなさるわけですか。

山内 はい。場合によっては。

前田 私は、竿秤体験にはまったく参加していません。佐々木先生も、活動への参加は「いいとこ取りしたらいいです」と言っ

てくださるんです。「自分の関心のあるところとか、手伝えるところだけ協力したらよく、無理することはないですよ」と。古文書の勉強会も、毎回参加のメンバーは会員の半分以上ぐらいいです。講演会のときにしかお顔を合わせない方もあるんです。

——なるほど。次に継続的な取り組みではないですが、平成27年には、かまど再生事業に協力なさいました。旧中島家のかまどが20年たつて傷んでいたので、つくり直すということになったんですね。

大西 これは文化庁の助成がついた事業で、正式には「市民とともに行う栗東歴史民俗博物館かまど再生事業」といい、実行委員会は当館と3つの団体で組織されました。市民学芸員の会はその一つの立場ですね。

澁江 初代のかまどをつくった地元のお年寄りには亡くなられていて、奈良の左官屋さんに指導してもらいながら作業に協力したという感じです。

大西 基本的にはこの博物館にもともとつくられたものを踏襲する（うちしゅう）というかたちなんですけれども、使えるものになるよう助言してくださるという立場でした。旧中島家のかまどは、煙突がないんです。土でつくって、火がうまく回るものをつくれる職人さんは、もうほとんどおられません。

また、事業の正式名称にもある「市民とともに」の部分も大事だったので、親子連

れなども参加できるワークショップとして作業を進めたのです。古いかまどを解体するのも、新しいかまど用の土をつくるのも。市民学芸員の会は、ワークショップの参加者さんたちを支える役割を果たしてくださりました。

◀市民学芸員の会の活動のようす

(H J L M)は市民学芸員友の会ブログより。それ以外は栗東歴史民俗博物館提供)

G 竹村コレクションの鉄道模型を自作の専用ケースで整理

H 竹村コレクション展に併設された運転会のための準備のようす

I 大盛況だった運転会 J いがぐり農園での綿花の収穫

K 竿秤体験プログラムの開発

L ビバシティ彦根で毎年開催されている「博物館夏祭り」に出張した竿秤体重計

M かまど再生事業で、2代目かまどの材料になる土とワラスサをこねる作業



G



H



I



J



K



L



M

——他に、いろいろな歴史講座、博物館祭りなどにも出向いておられます。

澁江 毎年7月に県内の有志の博物館が、ビバシティ彦根（彦根市）の2階で開催し

おもしろい世界を外に向けて発信

——他の活動で印象に残っているものはありますか。

山内 私の場合は、古文書の輪読会ですね。昔から読みたいと思っていたものですから。栗東には別に古文書を読むグループがあつて、そちらでもかれこれ10年ほどやっていたのですが、昔の手書き文字というのは、自分の祖父や祖母がくれた手紙ですら読めない字がいくつあったのですが、ようやく読めるようになりました。

ひと世代、ふた世代前だけで、言葉づかいも生活習慣も違うので、そこへどんな言葉が入るのか推測できないんです。お役所へ出す訴え状みたいなものは前後が定型だから、ぼつんと点が打ってあるだけでも、ああこれは「候」だなとか予測できるけれど。個人的な手紙は本当にわかりにくい。

栗東は街道も通っているんな記録が残されていながら、手がつけられていないものが多いようです。例えば、東海道沿いにあった薬屋「ぜさい屋」^{※5}（旧和中散本舗）の文書にしても大量で、表題だけリスト化されて、すべての中身を読み解くところまでいいない。そういう掘り起こしが、私たちにもできたらおもしろいなという思いはありますね。

前田 会員の多くはわりと土台がある方なんです。初期のメンバーには栗東の観光ガイドをしていた方などもおられたし。何

ている「博物館夏祭り」という催しに、当会からはいつも、先ほどの大型の竿秤などを持っていつて参加しています。

もなかった私みたいな者でも、例えば線路を走る貨物列車を見て、いままではただの貨物列車でしたが、「あれは桃太郎」「これは金太郎」（機関車の愛称）だとかいう知識が増えると、世界が広がりますね。丁石にしても、以前だったらただの石が立っているぐらいに思っていたのが、彫ってある文字の意味を知れば変わってきますし。

——学芸員の大西さんにとっては、市民学芸員はどんな存在でしょうか。

大西 栗東歴史民俗博物館を支えてくださっている心強いパートナーです。

10年目になってこれまでの写真を整理しながら感じたのは、竿秤体験などで、子どもたちと接している会員さんはとても笑顔で、かまど再生事業でも、参加している子どもたちと目線がばっちり合った、いい写真がたくさんあるなあということ。ご自身の自主的な学習とか向学心という面は、佐々木元館長の目論み^{もくろみ}が十分成功したと思うのですが、市民学芸員の皆さんが他の来館者さん、大人も子どももふくめた方々と接する場面では、博物館にもおもしろい世界があることを外に向けて発信してもらっているとなってます。写真にはそうした瞬間が切り取られていると思います。

——あと、市民学芸員の活動を通して、栗東の地域性^{ちいきせい}みたいなのがわかった瞬間などはありますか。

澁江 もともとは農村地帯です。いまは転入者の方が多いですが。

大西 そもそも栗東の町づくり自体が、

昭和30年代に栗東の女神高速道路のインターチェンジができるというので、外からどんな人を入れて、都会に通ってもらおうという構想から始まっているので。

皆さん、外からの転入者であるとおっしゃっているんですけど、すでにもう「ここが地元」という意識も強いと思うんです。

私が館に務め始めた15年ぐらい前に、「小地域展」といって、旧大字単位での展覧会を行った時、新興住宅地である地域に關しても、「開発時の資料を提供していただかせんか」とお願いしたら、ちよつと驚かれた記憶があります。でも、新興住宅地である地域も、もう栗東の歴史の一部になっているんですね。いろんな人が住んで、栗東の町を愛着を持ってもらっているという感じはとてもします。違いますか？

山内 いや、そうだと思います。人口の比率にしたら、圧倒的に転入者が多いでしょうから。

大西 しかも大きなニュータウンを開発したわけではなくて、大字ごとに煙が出ない工場を呼んで雇用をつくり人が移り住むという町づくりだったので、ニュータウンだけで固まることもなく、なじんでくださったように思います。市民学芸員さんもそうした方が多いと感じています。その意味では、昭和30年代に立てられた都市計画の結果の一つが、市民学芸員の皆さんでもあるのだと思います。

——うまくまとめていただいてありがとうございます。本日は興味深いお話をありがとうございました。（2018.9.21）

※5 ぜさい屋 江戸時代、腹痛などに効能のある薬「和中散」を販売した大角家の屋号。店舗だった住宅は、国指定重要文化財。

10月21日(日)、栗東歴史民俗博物館で佐々木進元館長を講師に、講演会「市民学芸員の会10年のあゆみとこれからの展望」を博物館への市民参画の可能性が催されます。「10ページ参照」

ひょうず 兵主大社伝来の太刀 一口

野洲市歴史民俗博物館

齊藤慶一

近江を代表する古社、兵主大社は滋賀県野洲市五条に鎮座しています。

この兵主神については、慶長9年（1604）の「兵主大明神縁起」（同社蔵）などによると、今から1300年前の養老2年（718）10月上旬に、琵琶湖を渡ってきた神として記されています。

当館では、平成30年10月20日（土）から12月2日（日）にかけて開館30周年特別展「遷座一三〇〇年記念 兵主大社展—琵琶湖を渡って来た神さま—」を開催し（月曜休館）、同社ゆかりの文化財を紹介します。同社伝来の文化財の特徴の一つとして、数多くの武具が伝わっていることがあげられます。

これは、兵主神が、古代中国において「菟丸」と呼ばれる兵器創造神であり、軍神として信仰されていたことから「兵主」が「つわものぬし」と読めることから、武士から崇敬された歴史の影響と考えられます。

今回は、その伝来品のなかから、初公開となる太刀を紹介します。

太刀は、刃を下に向けて腰につり下げる刀剣で、刃長（刃の長さ）がおおむね2尺（約60cm）以上のものです。紹介する太刀は作風上から、小反物の刀工によると考えられます。小反物の意味は明確ではありませんが、南北朝時代後期の備前長船刀工の一派を指す呼称です。備前・国長船（現在の岡山県瀬戸内市）は主要な刀剣産地でした。同社伝来の太刀の銘は、「六」（うかんむり）1字のみ判読でき、小反物一般に共通する銘振りであることから南北朝時代から室町時代初期の作と考えられます。発見当初、太刀は錆びていましたが、創建1300年に合わせて研ぎ磨かれ、ふたたび、その美しさを鑑賞できるようにになりました。

11月13日（火）から12月2日（日）にかけて公開する太刀（刃長73・0cm）をご観覧ください。



↑初公開 太刀 一口 南北朝時代～室町時代
（兵主大社蔵・松下剛士氏撮影）

大津市は今年(平成30)の10月1日、明治31年(1898)の市制施行から120周年、つまり2度目の還暦を迎えました。

本展では、大津市が1度目の還暦を迎えた昭和33年(1958)当時の写真や資料を用い、湖岸の埋め立てや山の手の開発などとともに、学校や公共施設などの整備が急速に進められた昭和30年代の大津を振り返ります。
入館料：一般320円、高校・大学生240円、小学生160円

休館日：月曜日

■関連講座

「建物でたどる大津市の120年」

10月28日(日) 午後2時～3時30分

講師：木津 勝(大津市歴史博物館)

定員：100名(申込要)

お問い合わせ先：TEL 077 (521) 2100

企画展 しちほんやり 賤ヶ岳合戦と七本槍

10月20日(土)～11月25日(日)

長浜城歴史博物館



縹糸威布袋菰蒲時給仏胴
(安土桃山時代 龍野神社奉賛会
蔵・龍野歴史文化資料館寄託)
脇坂安治が着用したと伝わる甲冑

天正11年(1583)、織田信長の死後、後継者をめぐって羽柴秀吉と柴田勝家が争った賤ヶ岳合戦で、秀吉の勝利に貢献した若い小姓たちがのちの世にいう「賤ヶ岳七本槍」でした。そもそも「七本槍」とはいっ頃からいわれるようになったのか、メンバーは固定されているのか、改めて七本槍のリアルな姿に迫ります。

入館料：大人(高校生以上)400円、小・中学生200円

休館日：開催期間中は無休

■展示説明会

10月27日(土) 午後1時30分～

お問い合わせ先：TEL 0749 (63) 4611

特別企画展 雪野山古墳の全貌

開催中～11月18日(日)

観峰館



雪野山古墳で見つかった
銅鏡・壺形土器・刀剣類

雪野山古墳は、古墳時代前期に築かれた全長70mの前方後円墳で、ヤマト政権と結びつきのある有力者の存在を示す、近江を代表する古墳です。平成元年に未盗掘の状態で見つかり、三角縁神獣鏡などの豊富な副葬品が完全な状態で残っていました。

本展は、雪野山古墳の出土品を一堂に会して展示する初めての試みです。

入館料：一般1000円、高校生・学生800円、中学生以下無料

休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)

■関連講座

「雪野山古墳の出土遺物について」

11月10日(土) 午後1時～2時

講師：福田由里子氏(東近江市埋蔵文化財センター主査)

参加費：500円 定員：20名(要予約)

お問い合わせ先：TEL 0748 (48) 4141

大津市制120周年記念企画展 60年前の大津

開催中～11月25日(日)

大津市歴史博物館



市制60周年記念パレード
の風俗行列(昭和33年)

特集展示 村の学問

開催中～11月4日(日)

栗東歴史民俗博物館



「算額 明和四歳亥十一月井上太左衛門宗益等奉納」(阿弥陀寺所蔵・旧善勝寺伝来資料)

昨年11月、当館が阿弥陀寺(栗東市東坂)から寄託を受けている2面の算額が、滋賀県指定有形文化財に指定されました。滋賀県に残される算額では最古と2番目に古いものにあたります。

本展示では、これらの算額のほか、江戸時代の大津やその周辺で活動した医師・学者などに関連する資料を通して、栗東郡の村むらでの学問の広がりをご紹介します。

観覧料：無料

休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)

■展示解説会

10月20日(土)・11月4日(日) 午後2時～

お問い合わせ先：TEL 077 (554) 2733

栗東歴史民俗博物館の会 10周年記念事業

講演会

「市民学芸員の会

10年のあゆみとこれからの展望

—博物館への市民参画の可能性—」

10月21日(日) 午後2時～4時30分



講師 佐々木進氏(栗東歴史民俗博物館元館長)ほか

会場 栗東歴史民俗博物館 研修室

定員 80名(当日受付) 参加費 無料

お問い合わせ先 栗東歴史民俗博物館
TEL 077 (554) 2733

草津宿本陣
見学会つき

道の国・近江の魅力発信!!

—街道文化を今に伝える博物館—

10月28日(日) 午後2時～3時30分

(午後1時30分～受付開始 3時40分～草津宿本陣見学会)



多くの街道が通る近江は、古くから「道の国」として知られてきました。今回は、「道の国 近江」をテーマに、街道沿いの施設の職員(滋賀県博物館協議会加盟館)が、街道の歴史や文化、それぞれの館での活動について、ご紹介します。

会場 史跡草津宿本陣(西広間)

定員 50名(先着順)

参加費 史跡草津宿本陣入館料

(大人240円、高校・大学生180円、小・中学生／草津市内65歳以上120円)

申込先

お申し込みは、電話・ファックス・メール、または本陣に直接
(10月21日まで)

草津市草津1丁目2-8(JR草津駅下車、東口より徒歩10分)

TEL&FAX 077 (561) 6636 e-mail: honjin@city.kusatsu.lg.jp

パネリスト

おおよそ

大角淳子氏(国指定重要文化財「大角家」住宅旧和中散本舗 第25代当主)

駒井文恵氏(甲賀市土山歴史民俗資料館・歴史文化財課係長)

谷口 徹氏(米原市柏原宿歴史館 館長)

八杉 淳氏(草津市立草津宿街道交流館 館長)

お問い合わせ先 滋賀県博物館協議会事務局(草津市立草津宿街道交流館内)

TEL 077 (567) 0030

講師: 瀬谷今日子氏(和歌山県立紀伊風土記の
丘主査学芸員)

「古墳時代以降の人物表現」

12月2日(日) 午後1時30分～3時

講師: 和澄浩介氏(滋賀県立近代美術館学芸員)

会場: 安土城考古博物館セミナールーム

定員: 140名(当日受付午後1時～、先着順)

参加費: 200円

お問い合わせ先: TEL 0748 (46) 2424

秋季テーマ展 草津宿珍客往来

10月20日(土)～11月25日(日)

草津宿街道交流館

東海道と中山道の分岐点として栄えた草津宿には、多くの「お客様」が訪れました。草津だけでなく街道沿いの各地に残る資料から、象やラクダ、御茶壺など、ちょっと変わった通行を取り上げ、当時の人々がそれらをどのようにに見聞きし、感じ取っていたかをご紹介します。

観覧料: 大人200円、高校・大学生150円、小中学生100円(史跡草津宿本陣との共通券あり)

休館日: 月曜日

■展示解説会

10月20日(土)

11月10日(土)

各日午前10時～午後2時

お問い合わせ先: TEL 077 (567) 0030



『舶来絵象紙』(豊橋市二川宿本陣資料館蔵)

定員: 120名 参加費: 要入館料(申込不要)
お問い合わせ先: TEL 077 (587) 4410

秋季特別展 キミそっくりな古代人がいたよ

—原始・古代の人物表現—

10月20日(土)～12月2日(日)

滋賀県立安土城考古博物館

滋賀県では、縄文時代の土偶や弥生時代の木偶、土偶形容器、古墳時代の人物埴輪など、原始・古代の人物を表現した各種の考古資料が出土しています。これらを近畿や東海地方の出土資料と比較しながら、各時代の人物表現の違いや連続性を考えます。

入館料: 大人890円、

高大生630円、小中

生410円、県内高齢

者(65歳以上)450円

休館日: 月曜日

■記念トークショー

「縄文人と土偶」

10月27日(土) 午後1時30分～3時

講師: 譽田亜紀子氏(文筆家で土偶女子)

聞き手: 福西貴彦(当館学芸員)

会場: 当館セミナールーム

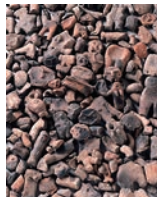
定員: 140名(当日受付午後1時～、先着順)

参加費: 500円

■関連講座

「人物埴輪のイレズミと岩橋千塚」

11月17日(土) 午後1時30分～3時



奈良県橿原遺跡出土
土偶(重要文化財)

開館30周年特別展・遷座1300年記念

ひょうすたいしや

兵主大社展

—琵琶湖を渡って来た神さま—

10月20日(土)～12月2日(日)

野洲市歴史民俗博物館(銅鐸博物館)

滋賀県野洲市五条に鎮座する兵主大社の

神は、琵琶湖を渡ってきたとの伝承があります。本年に同社が遷座1300年を迎えたことを記念して、その歴史と文化を紹介する初めての展覧会を開催します。

入館料: 大人200円、

高大生150円、小中生100円

※「関西文化の日」11月17・18日は入館無料

休館日: 月曜日

■スペシャルイベント

10月20日(土) 午後2時～

兵主太鼓保存会の演奏・展示解説など

11月23日(祝/金) 午後2時～

兵主巫女の舞・展示解説など

申込不要・要入館料

■記念講演会

「兵主大社の歴史と文化—湖国の社と信仰—」

10月27日(土) 午後2時～4時

講師: 嵯峨井建氏(京都國學院講師)



初出陳 木造男神坐像 平安時代
(兵主大社蔵・寺島典人氏撮影)

おうみ
淡海文庫60

幕末彦根藩の側役 大久保小膳

大久保治男 著

B6判並製本 総200頁 1500円＋税

校門外の変直後には早駕籠で彦根へ走り、時が来るまでと機密文書を秘蔵した大久保小膳。井伊直亮・直弼・直恵と、大変革期の三代藩主に仕えた忠義の武士の評伝。



自費出版年鑑2018

NPO 法人日本自費出版ネットワーク 企画

サンライズ出版 編

A5判並製本 総192頁 2000円＋税

第21回日本自費出版文化賞大賞受賞作『石川啄木と北海道』の著者・福地順一氏(北海道)インタビューをはじめ、各部門受賞作・入賞作の紹介、応募作の全書名、全著者名を掲載。



わだち

中居和平 著

四六判上製本 総190頁 非売品

問合先 長浜市高畑町233 (著者)

教員を定年退職後、「滋賀の教師塾」事務局長、次いで滋賀大学教育学部特任教授として教師をめざす学生たちと関わってきた著者が、各方面に寄稿したエッセイ類を収録。(2018. 8. 1刊)



琵琶湖三十六景

藤松 高 著

四六判並製本 総206頁 頒価1000円

問合先 岐阜県可児市愛岐ヶ丘2-31 (著者)

葛飾北斎の「富嶽三十六景」に対抗して、日本一の琵琶湖が視界に入る滋賀県の三十六景を、自ら歩き、ときには屋形船にゆられながら、文章で書き留める試み。(2018. 8. 10刊)



琵琶湖博物館ブックレット8

古琵琶湖の足跡化石を探る

岡村喜明 著

A5判並製本 総112頁 1500円＋税

動物の足跡化石に夢になった著者は、開業医のかたわら、足跡のつき方を実見するため、中国やタイの動物園、さらに野生動物保護区へ。足跡化石の同定に至る道のりを綴る。



フォトエッセイ 旅のかなた

遙かなるベトナム

岡村光夫 著

四六判並製本 総94頁 1000円＋税

滋賀文学会会長である著者がベトナムの旅でとらえた光景を40点の写真とショートエッセイで綴る。人々の暮らしや文化にふれ、観覧車イーゴス108との再会も果たした旅日記。

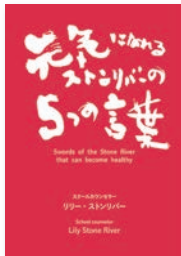
元気になる ストンリバーの5つの言葉

リリー・ストンリバー (石川百合子) 著

A5判並製本 総112頁 頒価1000円

問合先 甲賀市水口町宇川680 (著者)

周りから「120歳まで生きられます」と言われ、体力測定で20歳代前半の判定を受ける著者が、その元気の秘密を伝授。(2018.7.31刊)



永源寺おぐら谷 木地師慕情

丁野永正 著

四六判並製本 総262頁 頒価1000円

問合先 東近江市建部瓦屋寺町134-25 (著者)

小椋谷(東近江市永源寺地域)の木地師は、甲賀忍者や江州音頭と並ぶ歴史遺産だと考える著者が、轆轤技術の歴史、小椋谷の成り立ちなどをわかりやすく解説。(2018. 8. 10刊)。



表紙写真 栗東歴史民俗博物館の市民学芸員の会による竹村定治コレクションの整理のようす (栗東歴史民俗博物館提供)

編集後記 特集中に登場した竿秤について。秋なので、農家に生まれた私は、竿秤と仕組みは同じなのだろうF型台秤(今もボクサーの計量などで見かける)を使って、乾燥・初繰が終わった新米を30kg袋につめる作業を手伝わされた中高生の頃を思い出します。竿秤はすべてデジタル計量器に変わったわけでもなく、パン屋で一定の重さの生地を作るのに使われているそう。㊥

Duetの定期購読をご希望の方は、下記までお申し込みください。

〒522-0004 滋賀県彦根市鳥居本町655-1

サンライズ出版株式会社 Duet 編集部

TEL (0749) 22-0627 FAX (0749) 23-7720
(振替) 01080-9-61946

インターネットでDuetがお楽しみいただけます。

<http://www.sunrise-pub.co.jp/>

お申込先